

収蔵作品データベース構築4年目の現状について

佐藤 克己

1 はじめに

当館で収蔵作品データベースを構築し始めて4年目となった。この4年間で収蔵作品に関するそれまで蓄積されてきたデータを整備するとともに収蔵作品データベースを活用することで収蔵作品に係るあらゆるデータを閲覧したり、作業を短時間でできるようにしたりしてきた。そして、目標としたのは、当館職員の誰もが当館収蔵作品に関する最新のデータを即座に操作して、業務を効率的かつ的確に行うことであった。

構築の経緯及び1年目と2年目の成果と課題については、当館研究紀要第9号及び第10号に掲載してあるが、今回は第10号掲載以降の改善点及び今後の課題を述べていくこととする。

2 データベースのアプリケーションについて

データベースのアプリケーションについては、構築初年度の2009（平成21）年度に、FileMaker社のFile Maker Pro10を購入し、構築2年目の2010（平成22）年度にはランタイムソリューションファイル¹が作成できるFile Maker Pro10 Advancedを購入して、収蔵作品データベースの充実を図ってきた。

しかし、学芸課職員の要望に応えようとして、100以上のレイアウト（画面上のデザイン）を作成してきた結果、File Maker Pro10 Advancedではレイアウト管理が思うようにできなくなっていた。ちょうどその頃File Maker Pro11 Advancedからはレイアウトをフォルダ管理できるように改善されたので、最新版のFile Maker Pro12 Advancedの販売開始を待って購入した。このバージョンは万代島美術館でも購入し、両館で修正や追加ができるようになった。

3 データベース構築3年目及び4年目の改善点について

(1) 多様な要望に応えられるデータの整備

データベースの最大のメリットは、登録されている膨大なデータの中から、必要な情報だけを最適なレイアウトで表示できることである。

2010（平成22）年度には、利便性の向上のために「館内収蔵作品データベース」テーブルと「作家データベース」の2種類のテーブル²を作成した。その後、更なる改良を加え、下記の5種類のテーブルを作成した。フィールド及びレコード数は、2013（平成25）年1月25日現在のものである。

- 館内収蔵作品データベース（160フィールド、7,106レコード）
 - ※管理替え作品も含む。現在収蔵中の作品は6,387レコード
- 作家データベース（69フィールド、795レコード）
- 展覧会データベース（19フィールド、329レコード）
- 寄贈者データベース（12フィールド、208レコード）
- 寄託者データベース（12フィールド、6レコード）

これらのテーブルをリレーションシップで結ぶこと、多様なレイアウトで最適な情報提供をすること、必要に応じたスクリプト³を活用することにより、多様な要望に応えら

¹ ランタイムソリューションファイルとは、ファイル进行操作するために必要なアプリケーションをパソコンにインストールしなくても、操作可能となるファイルである。今回の場合は、File Maker Proをインストールしなくてもデータベースの検索、閲覧が可能である。ただし、レイアウトやデータ等の変更や追加はできない。

² File Maker Proでは、データの集まりのことを「レコード」と呼ぶ。「館内収蔵作品データベース」で7,106レコードあるということは、登録されている作品数が7,106件あるということを表している。作家名や作品名、制作年等、その作品に関するデータを表示する場所を「フィールド」と呼び、160フィールドあるということは、160のデータ項目があることを表す。このレコードとフィールドの集合を「テーブル」と呼ぶ。

³ スクリプトとは、File Maker Proの操作を登録し、設定したボタンをクリックすることによって作業を自動実行するための機能である。

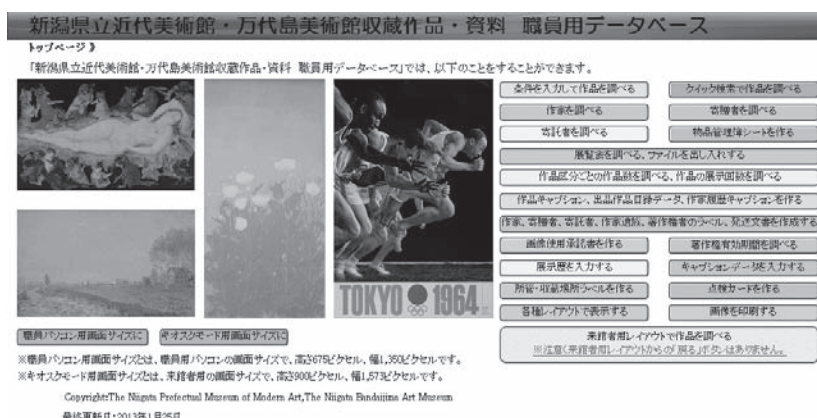


図1 トップページ

れるデータベースの構築を心がけてきた。

また、これらのデータ操作をスムーズにできるように、トップページからすぐに表示できるようにした。(図1)

現在使用しているテーブル・フィールド・レコード数は図2のとおりである。5種類のテーブルのリレーションシッ

「Sakuhin」のデータベースの管理

テーブル フィールド リレーションシップ

テーブルは、レコードとフィールドの情報のセットです。1つのファイルに複数のテーブルを作成できます。

5テーブル定義

テーブル名	ソース	詳細	データベース内のテーブル名
※ 館内収蔵作品データベース	FileMaker	160 フィールド、7106 レコード	館内収蔵作品データベース
※ 作家データベース	FileMaker	69 フィールド、795 レコード	作家データベース
※ 展覧会データベース	FileMaker	19 フィールド、329 レコード	展覧会データベース
※ 寄贈者データベース	FileMaker	12 フィールド、208 レコード	寄贈者データベース
※ 委託者データベース	FileMaker	12 フィールド、6 レコード	委託者データベース

図2 データベース管理(テーブル)

さらに、現在使用しているレイアウトは図4のようにレイアウトフォルダで管理できるようになった。File Maker Pro10では、作成したレイ



図3 データベース管理(リレーションシップ)

アウトが羅列されていただけで 図3 データベース管理(リレーションシップ) あったので、表示させたいレイアウトを探すのに大変苦労していた。このレイアウトフォルダでの管理は、収蔵作品データベースの改良には待ち望んでいた機能であった。2012(平成24)年11月28日現在までに作成したレイアウト数は、230である。

さらに、現在使用しているスクリプトは、図5のようにスクリプトフォルダで管理している。2013(平成25)年1月25日現在までに作成したスクリプト数は、263である。



図4 レイアウトの管理

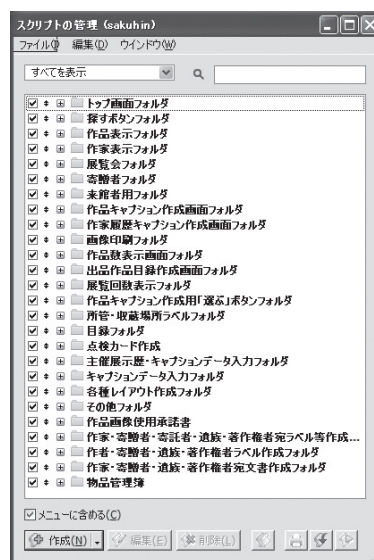


図5 スクリプトの管理

収蔵作品データベースは、当館職員の誰もがマニュアルを見なくても操作できるように、また職員の要望を実現できるように設計してきた。そのため、レイアウトをより使いやすいものにし、スムーズな作業を確保するためにスクリプトを設定してきた。作品を調べる画面から、改良点を見ることにする。

条件を入力して検索すると、図7のように「該当作品一覧画面」となり、対象となる作品の一覧画面となる。

[illegible]

新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品・資料 職員データベース										
トップページ）作品検索画面）該当作品一覧画面） 該当作品数は 23 点です。					※作品名または画家名を入力すると、タブ形式作品表示画面になります。					
作品番号欄に記入する		作品区分ここから選ぶ		カード番号欄に記入する		エロク番号欄に記入する		新着情報欄に記入する		教文一覽畫面へ
作品区分	管理簿番号	カード番号	作家名	画像1	ボジ番号	制作年	所管・収蔵場所	登録番号	コレクションNo	公開の有無
所蔵作品	NOM1444-000-000	洋画0472	マリニー、マリノ		E0019F	1953年	近代美術館 収蔵庫2	電管E0002	電管コレクション	公開
洋画2次	取得年度 1906年(平成8)	作品番号 OP0472								
所蔵作品	NOM021-000-000	洋画0362	エドワード・マニング		E0014F		近代美術館 収蔵庫2			公開
洋画2次	取得年度 1992年(平成4)	作品番号 OP0362								
所蔵作品	NOM024-000-000	洋画0364	モネ、クロード		E0015F	1873年	近代美術館 収蔵庫2			公開
洋画2次	取得年度 1992年(平成4)	作品番号 OP0364								
所蔵作品	NOM1443-000-000	洋画0471	ニコルソン、ベン		E0020F	1946年	近代美術館 収蔵庫2	電管E0017	電管コレクション	公開
洋画2次	取得年度 1996年(平成8)	作品番号 OP0471								
所蔵作品	NOM0823-000-000	洋画0308	ランソン、ポール＝エリ		E0008F	1895年	近代美術館 収蔵庫2			公開
洋画2次	取得年度 1991年(平成3)	作品番号 OP0308								
所蔵作品	NOM1052-000-000	洋画0426	ルオー、ジャールジュ		E0011F	1948 -1952年	近代美術館 収蔵庫2			公開
洋画2次	取得年度 1996年(平成8)	作品番号 OP0426								

さらに、詳細なデータを閲覧したい作品名または画像をクリックすると、図8のように

[illegible]

24

「展示・貸出歴」タブでは、図9のように、すべての展示・貸出回数、近代美術館での展示回数、万代島美術館での展示回数、巡回ミュージアム、貸出での展示回数が一目で分かるように作成した。

詳細作品解説	短縮作品解説	過去の解説	展示等来歴	寄託	追放等	参考文献	展示・貸出歴	修復
すべての展示・貸出歴検索文字(すべて=○):			○	展示回数:			70回	
近美展示歴検索文字〔新潟県立近代美術館〕:			〔新潟県立近代美術館〕	展示回数:			61回	
万美展示歴検索文字〔万代島美術館〕:			〔万代島美術館〕	展示回数:			1回	
巡回展示歴検索文字(巡回ミュージアム):			巡回ミュージアム	展示回数:			1回	
貸出歴検索文字(年度貸出):			年度貸出	貸出回数:			7回	
【1993年(平成5)度】								
○1993年度常設展第1期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1993年7月15日～10月3日)				
○1993年度常設展第2期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1993年10月5日～12月26日)				
○1993年度常設展第3期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1994年1月4日～3月27日)				
【1994年(平成6)度】								
○1994年度貸出〔貸出先:名古屋美術館 貸出期間:				1994年4月26日～6月21日〕(展覧会名:モネ展 (会場:名古屋美術館 会期:1994年4月16日～6月12日))				
○1994年度常設展第2期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1994年6月21日～9月25日)				
○1994年度常設展第3期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1994年9月30日～12月26日)				
○1994年度常設展第4期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1995年1月4日～3月26日)				
【1995年(平成7)度】								
○1995年度常設展第1期〔新潟県立近代美術館〕(全期間				1995年4月1日～6月25日)				

図9 「展示・貸出歴」タブ

(3) 画像の整理

収蔵作品に係る業務の中で、画像の占める割合は大きい。チラシや美術鑑賞講座用資料等を作成するときは、欠かせないものである。このため、全収蔵作品に係る画像をデータベースに掲載することを目標に、この2年間は取り組んできた。その結果、データベース上に掲載する画像はほぼすべて収録が完了した。

画像の掲載にあたっては、1つの作品に掲載できる画像の数を18まで増やした。これは、図10のように桐谷洗鱗の《釈尊一代記》の画像が17あったからである。

新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品・資料

[トップページ](#)
[作品検索画面](#)
[該当作品一覧画面](#)
[タブ式作品表示画面](#)
[作品キャプション作成画面](#)

作品区分1: ☒ 所蔵作品 2: ☐ 日本画 3: ☐ 国内 4: ☐ 日本の美術 作品番号:

作品名:

作家名: 物品管理簿番号:

桐谷 洗鱗 ポジの有無・番号:

制作年: 公開の有無:

所管: 外寸:

収蔵場所: 内寸:

作品形状1: 作品形状2:

技法・素材:

※画像をクリックすると、拡大画面が表示されます。

図10 桐谷洗鱗《釈尊一代記》

用途に応じて必要な画像サイズや種類は異なる。そこで、コピー＆ペーストで即座に利用できるデータベース掲載画像、館外等に持ち出して利用するための100KB程度のJPEG画像、ポスター等にも使用できる50MB程度のTIFF画像の3種類の画像を作成した。ただし、TIFF画像については、ポジフィルムがある2,767作品に限定されている。

また、画像名については、これまでに使用されていた「A0001J(日本画で国内作家の1番)」「E0005F(外国油彩で外国作家の5番)」といった名称をそのまま使用し、収蔵作品データベースとの整合性を図った。

(4) 作品フォルダの整理

当館では、開館以来収蔵作品1点ずつに紙ベースの作品フォルダを作成してきた。この作品フォルダには、台帳となる作品基本カード、作品の状態を記録するための点検カードがワンセットとなっている。

これまでも担当者によって収蔵作品が増えるたびに作品フォルダを追加してきたが、担当者の変更になるなどして、一貫した追加作業ができないところがあった。また、万代島美術館の所管の作品については、万代島美術館に作品フォルダがあることを明記する必要もあった。そこで、収蔵作品データベース構築の一作業として、作品フォルダの整理作業も行っていた。作業推進にあたっては、アートボランティアの方々や職場体験の中学生等の協力を仰ぎ、6,387点の収蔵作品すべての作品フォルダを完備することができた。

また、点検カード作成については、収蔵作品データベースのみで作成できるようにした。トップページから「点検カードを作る」をクリックして、作成したい作品を選べると、図11のように表示され、「印刷」をクリックすると、両面印刷で点検カード作成ができるようにした。なお、作品によっては必要な画像が多くあることから、画像は18枚まで登録できるようにしたので、点検カードも同様に18枚作成できるようにした。

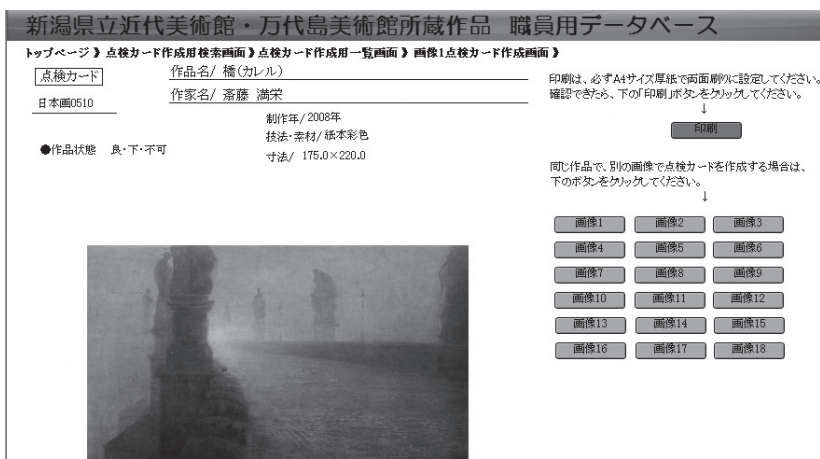


図11 点検カード作成画面

(5) 「選ぶ」ボタンの改良とリレーションシップの活用

作品キャプション及び作家履歴キャプションを、収蔵作品データベースで作成する際に、「選ぶ」ボタンを活用することについては研究紀要第9号、第10号で紹介した。その後、この「選ぶ」ボタンを改良し、さらに当館収蔵作品データベースと作家データベースの間にリレーションシップを設定することで、利用しやすい環境を整えてきた。

まず、作品キャプション作成画面における「選ぶ」ボタンは、研究紀要第9号の時点では値一覧で「選ぶ」「選ばない」という表示が常に出るようにフィールドのタイプを「テキスト」に設定してあり、「選ばない」のチェックボックスは不要にもかかわらず表示されていた。第10号の時点では、フィールドのタイプは「テキスト」のままで値一覧を「選ぶ」のみとしていた。この設定を変更するために、「No080 作品選択ボタン」フィールドのタイプを「テキスト」から「数字」に変更した。次に、このフィールドの値一覧を「1」のみ設定した。この設定変更により、すっきりとした画面表示が可能となった。

「作品キャプション作成用検索画面」で作品を選べると、図12のように「作品キャプ



図12 作品キャプション作成用一覧画面

「作品キャプション作成用一覧画面」が表示される。ここでは「選ぶ」という表示はなくなり、各作品の「選ぶ」項目に□のみが表示される。ここをクリックすると「1」が選択されたこととなり、チェックボックスに「×」が表示されるようにした。このことにより、画面がすっきりと表示されるとともに、操作上の混乱を招かないようにすることができた。

また、「『選ぶ』のみ表示」「『選ぶ』をすべてクリアする」のボタンに加えて、「すべて『選ぶ』」ボタンを設定した。このボタンは、同じ作家の作品等を一括して選択できるので、1点ずつをクリックしなくてもよくなった。

さらに、作業の効率化を図るために、出品作品目録データ作成と作家履歴キャプションデータ作成もできるように改良した。

作品目録データを作成するには、図12の「『出品作品目録作成画面』を別ウィンドウで開く」をクリックする。すると、図13のように「出品作品目録データ作成画面」が表示されるので、「Excelで出力する」をクリックすれば、データが完成する。

作家履歴キャプションデータを作成するには、図12の「『該当作家一覧表示画面』を別ウィンドウで開く」をクリックする。すると、図14のように「該当作家一覧表示画面」が表示される。ここでは、「収蔵作品データベース」と「作家データベース」の間にリレーションシップが設定されていることを活用して、図15にあるように、下記のスクリーンショットを設定した。

新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品・資料 職員用データベース					
トップページ 作品キャプション作成用検索画面 作品キャプション作成用一覧画面 出品作品目録データ作成画面					
Excelで出力する		このウィンドウを開く			
作家名	作品名	技法	寸法	制作年	
横井 三兵衛	龍居宮崎	日本画	186.0×312.2	1931年(昭和6)	
横山 操	母子	日本画	181.5×182.0	1968年(昭和33)	
下ニ, モーリス	夕映文の甲のマルト	油彩	130×71		
安宅 安五郎	姉弟	油彩	95.5×163.6	1931年(昭和6)	
園崎 経郎	遠い海	油彩	130.0×194.5	1987年(昭和62)	
園崎 経郎	女醫さん	油彩	116.5×91.0	1947年	
佐藤 吾三	帰郷	油彩	27.0×60.0	1964年(昭和29)	
佐藤 吾三	郵便局宮下君	油彩	87.8×42.2	1931年(昭和6)	
佐藤 吾三	農村託児所	油彩		1934年(昭和9)	
中村 幸	洲崎義郎氏の肖像	油彩	83.0×64.0	1919年(大正8)	
峰村 リン子	桜井清江像	油彩	116.7×72.7	1930年(昭和5)	
バルラッハ, エルンスト	ロシアの恋人たち	ブロンズ鑄造	23.9×42.1×31.6	1908年	
ホルヴィッツ, ケーテ	母親と二人の子	ブロンズ鑄造	高さ77.0×幅88.0×奥86.0	1932-1936年	

図13 出品作品目録データ作成画面

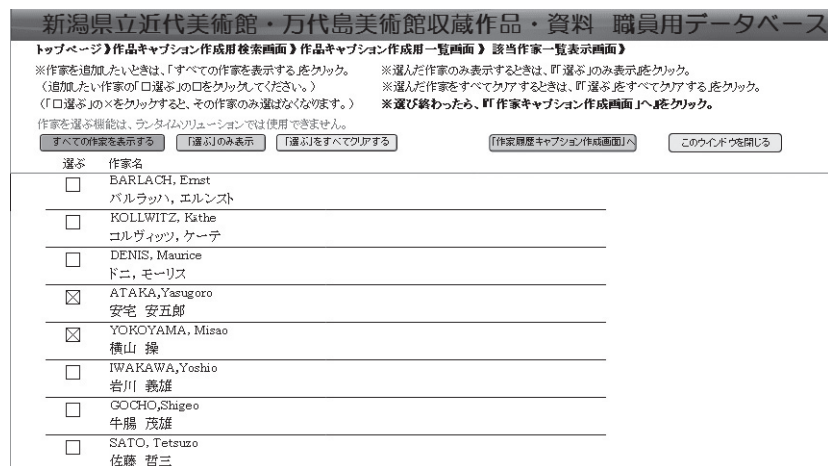


図14 該当作家一覧表示画面

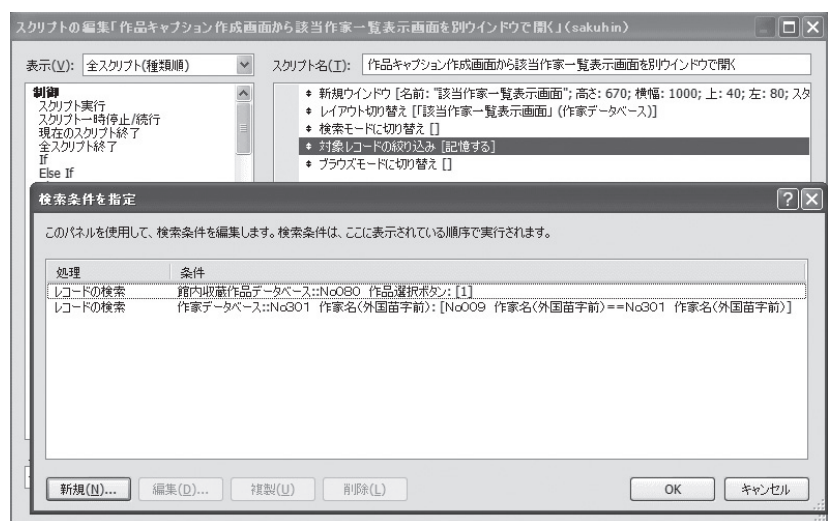


図15 該当作家一覧表示

- ①新規ウインドウを開く
- ②レイアウト切り替え[該当作家一覧表示画面 (作家データベース)]
- ③検索モードに切り替え
- ④対象レコードの絞り込み
 - レコードの検索 (館内収蔵作品データベース::No080 作品選択ボタン[1])
 - レコードの検索 (作家データベース::No301 作家名 (外国苗字前) :[No009 作家名 (外国苗字前)]=No301 作家名 (外国苗字前)]
 - ブラウズモードに切り替え

こうして、作品キャプション、出品作品目録、作家履歴キャプションのデータ作成をスムーズに行うことを可能にした。これは、リレーションシップを活用することで可能となったことである。

このリレーションシップは、「作家・寄贈者・寄託者・作家遺族・著作権者のラベル・発送文書を作成する」機能でも活用されている。

4 おわりに

収蔵作品データベース作成4年目にして、当館年報に記載された収蔵作品に関するデータの収録は完了し、また画像データや作品フォルダ等の整備も完了した。さらに、

2009（平成20）年度以降のコレクション展や企画展で作成したキャプションデータも取り込み、内容が充実したと自負している。

今後は、来館者用データベースの設定、インターネットにおけるデータベース作成等を検討していきたい。

（新潟県立近代美術館 学芸課長代理）